



2021年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2021年2月15日
東

上場会社名 株式会社FRONTEO 上場取引所
コード番号 2158 URL <https://www.fronteo.com/>
代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)守本 正宏
問合せ先責任者 (役職名)取締役 管理本部長 (氏名)上杉 知弘 (TEL)03(5463)6344
四半期報告書提出予定日 2021年2月15日 配当支払開始予定日 -
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第3四半期の連結業績(2020年4月1日~2020年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第3四半期	7,562	0.9	65	—	△7	—	△13	—
2020年3月期第3四半期	7,496	△10.8	△907	—	△948	—	△1,037	—

(注) 包括利益 2021年3月期第3四半期 △26百万円 (—%) 2020年3月期第3四半期 △1,051百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第3四半期	△0.35	—
2020年3月期第3四半期	△27.19	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第3四半期	11,291	3,940	33.4
2020年3月期	10,461	3,310	29.1

(参考) 自己資本 2021年3月期第3四半期 3,773百万円 2020年3月期 3,043百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2021年3月期	—	0.00	—	—	—
2021年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日~2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	
通期	11,000	5.1	200	—	97	—	10	—	0.26	

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 - 社 (社名) 、除外 - 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2021年3月期3Q	39,207,862株	2020年3月期	38,149,862株
2021年3月期3Q	696株	2020年3月期	696株
2021年3月期3Q	38,273,809株	2020年3月期3Q	38,143,604株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	10
(会計方針の変更)	10
(セグメント情報等)	11
(重要な後発事象)	11
3. その他	12
継続企業の前提に関する重要事象等の解消	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社グループは「Bright Valueの実現～記録に埋もれたリスクとチャンスを見逃さないソリューションを提供し、情報社会のフェアネスを実現する～」という企業理念のもと、独自開発の人工知能(AI)エンジン「KIBIT(キビット)」及び「Concept Encoder(コンセプトエンコーダー)」を柱とする高度な情報解析技術を駆使し、創薬支援、診断支援、金融・人事・営業支援などさまざまなフィールドで、必要かつ適切な情報に出会えるフェアな世界の実現及び社会課題の解決に貢献しております。

当第3四半期連結会計期間におけるAIソリューション事業につきましては、ライフサイエンスAI分野、ビジネスインテリジェンス分野共に複数のプロジェクトに関して進捗が見られました。新たなコア事業となったライフサイエンスAI分野では、注力しているデジタルヘルス領域、ドラッグディスカバリ領域において事業化が進展しております。

デジタルヘルス領域では、開発中の「会話型認知症診断支援AIシステム」に関し、独立行政法人医薬品医療機器総合機構(PMDA)と臨床試験入りに向けて最終協議をしている状況です。引き続き、世界初となる言語系AI医療機器としての承認・上市に向けて準備を進めてまいります。また、昨年申請していた第一種医療機器製造販売業許可について、2021年1月に取得することができました。これにより、AI医療機器の技術開発から製品開発・臨床開発・製造・販売まで一気通貫して自社で行い、提供することが可能となります。

ドラッグディスカバリ領域では、武田薬品工業株式会社T-CiRAディスカバリーと共に、当社独自のAI創薬技術を活用して希少疾患を対象とした新たな薬剤の発見、開発に協力する共同事業を開始いたしました。本事業によって創薬研究の高度化と成功確率の向上を図り、AIによる創薬研究の生産性向上を目指します。

また、新たな取り組みとして、「内閣府 戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)」第2期で採択された「AIホスピタルによる高度診断・治療システム」の構築に向けたプロジェクトに協力参加することを2021年1月に発表いたしました。当社は本プロジェクトにおいて、医療情報データベースの構築やより精度の高い診断補助・治療支援システムの実現を目指します。

ビジネスインテリジェンス分野では、新型コロナウイルス感染症対策の一環として新しい生活様式やテレワークが浸透するなか、テレワークなどに対応した企業のDX(デジタルトランスフォーメーション)が加速したことで、当社のAIソリューションへのニーズも一層高まっております。そうした状況を背景に、当第3四半期連結会計期間では当社の「KIBIT」製品の導入が進み、金融分野での大型案件の獲得に繋がるなど好調に推移いたしました。

リーガルテックAI事業につきましては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が当連結会計年度上期より続いており、当第3四半期連結会計期間もeディスカバリ、フォレンジック共に国内における新規案件の受注が低調に推移いたしました。今後は米国市場にシフトした営業活動を加速させ、引き続きAIレビューツール「KIBIT Automator」を活用した案件の受注を積み上げてまいります。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の連結業績は、売上高が7,562,131千円(前年同期比0.9%増)となり、営業利益65,555千円(前年同期は907,358千円の営業損失)、経常損失7,794千円(前年同期は948,537千円の経常損失)、親会社株主に帰属する四半期純損失13,290千円(前年同期は1,037,117千円の親会社株主に帰属する四半期純損失)と、前年同期を上回る結果となりました。

各事業の当第3四半期連結累計期間の概況は以下のとおりです。

(AIソリューション事業)

ライフサイエンスAI分野では複数の大手企業とのパートナーシップが加速し、当社のコア事業として着実に事業化が進展しております。大型案件のマイルストーンフィーを獲得するなど前年同期比で売上高の増加に大きく寄与しました。また、ビジネスインテリジェンス分野ではIT投資が堅調な金融分野にて大型案件を獲得いたしました。

この結果、売上高は前年同期比61.7%増加し1,443,307千円、営業損益に関しましては、売上高が前年同期比で61.7%増加したことにより2,139千円の営業損失（前年同期は215,635千円の営業損失）に止めることができ、前年同期を上回る結果となりました。なお、AIソリューション事業には提出会社の間接部門に係る費用369,382千円が含まれております。

サービスタイプ別の売上高の概況は下表のとおりです。

サービスタイプ別		売上高
AIソリューション事業	ライフサイエンスAI	375,062 (76,350)
	ビジネスインテリジェンス	1,017,503 (768,942)
	海外AI	50,741 (46,813)
AIソリューション事業売上高 計		1,443,307 (892,105)

() は前第3四半期連結累計期間の実績

(リーガルテックAI事業)

AIレビューツール「KIBIT Automator」を活用したレビューの受注は販売拡大に取り組んだ結果、着実に積み上がってまいりました。一方で、国内のeディスカバリ市場においては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、ベンダー選定が日本本社ではなく、現地の米国子会社にて行われることが顕著となったため案件受注数、案件規模共に低調に推移いたしました。この結果、リーガルテックAI事業の売上高は6,118,824千円（前年同期比7.3%減）、営業損益に関しましては、eディスカバリサービスで高い利益率を見込めるAIを主体としたビジネスモデルへの転換による成果と、前期に実施した米国子会社のコスト構造の改善が継続して寄与し67,694千円の営業利益（前年同期は691,722千円の営業損失）となりました。

サービスタイプ別の売上高の概況は下表のとおりです。

サービスタイプ別		売上高
① eディスカバリサービス	Review	1,876,262 (1,871,394)
	Collection, Process	885,462 (1,062,096)
	Hosting	2,860,276 (3,038,208)
計		5,622,000 (5,971,698)
② フォレンジックサービス		496,823 (632,274)
リーガルテックAI事業売上高 計		6,118,824 (6,603,973)

() は前第3四半期連結累計期間の実績

顧客ホームカントリー別の売上高の概況は下表のとおりです。

(単位：千円)	
顧客ホームカントリー別	売上高
日本・アジア	2,318,059 (3,105,066)
米国・欧州	3,800,765 (3,498,907)
リーガルテックAI事業売上高 計	6,118,824 (6,603,973)

() は前第3四半期連結累計期間の実績

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

総資産は、前連結会計年度末と比べて830,063千円増加し、11,291,652千円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末と比べて331,023千円増加し、5,039,298千円となりました。これは主に、第三者割当による増資、売上債権の回収により、現金及び預金が1,278,111千円増加し、受取手形及び売掛金が903,558千円減少したためです。

固定資産は、前連結会計年度末と比べて499,040千円増加し、6,252,354千円となりました。これは主に、償却にのれんが197,047千円減少、顧客関連資産が172,349千円減少したものの、当期首より米国会計基準を適用している米国子会社において、新リース会計基準(ASC第842号)を適用したことにより使用権資産を727,571千円計上したことや、保有株式の時価の騰貴による投資有価証券の増加210,600千円によるものであります。

(負債)

負債合計は、前連結会計年度末と比べて199,712千円増加し、7,351,046千円となりました。

当第3四半期連結会計期間においてシンジケートローンの締結(2015年12月締結のM&Aローンの実質的な更新)及び返済により、流動負債の1年内返済予定の長期借入金が2,145,609千円、短期借入金が200,000千円それぞれ減少し、固定負債の長期借入金が1,792,253千円増加しております。

また、新リース会計基準(ASC第842号)を適用したことにより、流動負債のリース債務が350,433千円、固定負債のリース債務が581,008千円それぞれ増加し、一方で固定負債のその他に含まれる長期前受金が178,552千円減少しております。

上記の結果、流動負債は、前連結会計年度末と比べて2,002,422千円減少し3,987,755千円となり、固定負債は2,202,135千円増加し、3,363,290千円となりました。

(純資産)

純資産合計は、前連結会計年度末と比べて630,350千円増加し、3,940,606千円となりました。これは主に第三者割当増資により資本金が399,966千円及び資本準備金が399,966千円増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年3月期連結業績予想につきましては、前回公表時(2020年5月20日)においては新型コロナウイルス感染拡大の影響が2020年9月までに収束すると仮定していましたが、その収束の見通しは不透明な状況が続いており、その影響は2021年3月末まで継続すると考えております。

当社グループにおいては、リーガルテックAI事業において新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け低調に推移しております。一方、AIソリューション事業において、新型コロナウイルス感染症拡大の影響はほぼ受けていないことに加え、新しい生活様式やテレワークが浸透するなか、企業のDX(デジタルトランスフォーメーション)が加速したことで当社のAIソリューションへのニーズも高まっており、好調を維持する見込みです。

両事業の状況を総合的に検討した結果、当社グループ全体の業績に与える影響は軽微であると考えており、業績予想の変更はしていません。

(注) 業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、不確実な要素を含んでおります。実際の業績等は、今後様々な要因によって記載内容と異なる可能性があることを予めご承知ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,572,054	2,850,166
受取手形及び売掛金	2,564,100	1,660,541
商品	151	107
仕掛品	1,806	—
貯蔵品	2,463	2,029
その他	674,042	640,177
貸倒引当金	△106,343	△113,725
流動資産合計	4,708,274	5,039,298
固定資産		
有形固定資産		
建物附属設備(純額)	119,716	85,692
工具、器具及び備品(純額)	466,129	375,878
リース資産(純額)	35,103	26,205
使用権資産(純額)	—	727,571
その他(純額)	27,237	4,558
有形固定資産合計	648,187	1,219,906
無形固定資産		
ソフトウェア	1,113,826	1,068,123
のれん	1,549,356	1,352,309
顧客関連資産	1,424,732	1,252,383
その他	221,925	341,804
無形固定資産合計	4,309,841	4,014,620
投資その他の資産		
投資有価証券	608,414	819,014
差入保証金	136,277	156,528
繰延税金資産	19,037	13,116
その他	31,554	29,166
投資その他の資産合計	795,284	1,017,826
固定資産合計	5,753,313	6,252,354
資産合計	10,461,588	11,291,652

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	117,662	129,813
短期借入金	1,600,000	1,400,000
1年内返済予定の長期借入金	3,002,982	857,372
リース債務	30,802	381,236
未払金	250,010	265,761
未払法人税等	40,396	84,101
賞与引当金	157,502	106,259
事業整理損失引当金	128,873	10,649
資産除去債務	—	12,679
その他	661,949	739,881
流動負債合計	5,990,178	3,987,755
固定負債		
長期借入金	760,796	2,553,049
リース債務	12,279	593,287
繰延税金負債	61,596	93,918
退職給付に係る負債	63,868	59,637
資産除去債務	46,268	34,690
その他	216,344	28,706
固定負債合計	1,161,154	3,363,290
負債合計	7,151,333	7,351,046
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,568,651	2,973,975
資本剰余金	2,352,737	2,711,122
利益剰余金	△1,753,381	△1,766,671
自己株式	△90	△90
株主資本合計	3,167,917	3,918,335
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	380,724	526,838
為替換算調整勘定	△505,540	△671,880
その他の包括利益累計額合計	△124,816	△145,041
新株予約権	201,303	167,311
非支配株主持分	65,850	—
純資産合計	3,310,255	3,940,606
負債純資産合計	10,461,588	11,291,652

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年12月31日)
売上高	7,496,079	7,562,131
売上原価	4,648,785	4,267,979
売上総利益	2,847,293	3,294,151
販売費及び一般管理費	3,754,652	3,228,596
営業利益又は営業損失(△)	△907,358	65,555
営業外収益		
受取利息	1,945	1,240
受取配当金	22,500	18,000
その他	3,103	2,673
営業外収益合計	27,549	21,914
営業外費用		
支払利息	24,086	35,158
為替差損	38,833	17,481
株式交付費	—	8,894
シンジケートローン手数料	2,333	16,278
その他	3,475	17,451
営業外費用合計	68,728	95,264
経常損失(△)	△948,537	△7,794
特別利益		
固定資産売却益	—	1,200
新株予約権戻入益	35,147	57,826
その他	—	4,811
特別利益合計	35,147	63,838
特別損失		
減損損失	—	14,402
固定資産除却損	3,783	8,944
構造改革費用	154,240	—
特別損失合計	158,023	23,346
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△1,071,413	32,696
法人税等	△47,146	38,776
四半期純損失(△)	△1,024,267	△6,080
非支配株主に帰属する四半期純利益	12,849	7,209
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△1,037,117	△13,290

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
四半期純損失(△)	△1,024,267	△6,080
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	23,244	146,114
為替換算調整勘定	△50,957	△166,339
その他の包括利益合計	△27,713	△20,225
四半期包括利益	△1,051,980	△26,305
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△1,064,830	△33,515
非支配株主に係る四半期包括利益	12,849	7,209

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

2020年11月16日開催の当社取締役会において決議いたしました第三者割当による新株式の発行に関し、2020年12月2日付で、株式会社フォーカスシステムズ及び株式会社学研ホールディングスから第三者割当増資の払込みを受けました。この結果、当第3四半期連結累計期間において資本金が399,966千円、資本準備金が399,966千円増加したこと等により、当第3四半期連結会計期間末において資本金が2,973,975千円、資本剰余金が2,711,122千円となっております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(会計方針の変更)

(リース会計(ASC第842号)の適用)

米国会計基準を適用している在外連結子会社において「リース会計」(ASC第842号)を第1四半期連結会計期間の期首より適用しております。

これにより、リースの借手は、原則としてすべてのリースを貸借対照表に資産及び負債として計上することといたしました。本基準の適用にあたっては、経過措置として認められている、本基準の適用による累積的影響を適用開始日に認識する方法を採用しております。

この結果、第1四半期連結会計期間の期首において有形固定資産の「使用権資産(純額)」が980,517千円、流動負債の「リース債務」が379,206千円、固定負債の「リース債務」が888,828千円それぞれ増加し、流動資産の「その他」が44,037千円、有形固定資産の「リース資産(純額)」が7,435千円、流動負債の「事業整理損失引当金」が109,653千円、「その他」が50,785千円、固定負債の「その他」が178,552千円それぞれ減少しております。

なお、この変更による当第3四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

(セグメント情報等)

I 前連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結損益 計算書計上額 (注)
	リーガルテックAI	AIソリューション	計		
売上高					
外部顧客への売上高	6,603,973	892,105	7,496,079	—	7,496,079
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	6,603,973	892,105	7,496,079	—	7,496,079
セグメント損失(△)	△691,722	△215,635	△907,358	—	△907,358

(注) セグメント損失の合計額は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当連結会計年度(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結損益 計算書計上額 (注)
	リーガルテックAI	AIソリューション	計		
売上高					
外部顧客への売上高	6,118,824	1,443,307	7,562,131	—	7,562,131
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	6,118,824	1,443,307	7,562,131	—	7,562,131
セグメント利益又はセグメン ト損失(△)	67,694	△2,139	65,555	—	65,555

(注) セグメント利益の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

固定資産の減損損失14,402千円は、主に遊休資産にかかるものであり、報告セグメントに配分しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等の解消

当社グループは、前連結会計年度において、借入基準年度又は前々連結会計年度末における純資産の75%を維持する財務制限条項に抵触したため、当第2四半期連結会計期間においても、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しておりました。しかし、当第3四半期連結会計期間において、業務資本提携による第三者割当増資、シンジケートローンの締結(2015年12月締結のM&Aローンの実質的な更新)等の施策を実行したことにより、当社の財務体質は大幅に改善されました。この結果、当第3四半期末において継続企業の前提に関する重要事象は解消しました。